九州地方

名前

問1　九州地方南部に位置する鹿児島県では、火山噴出物が堆積して形成されたシラス台地が広く分布しています。この土地の「水はけが良すぎる」という性質を背景として、古くから稲作が制限されてきた代わりに発達した、鹿児島県の農業産出額の半分以上を占める主要な農業部門は何ですか。（2024年 山口県公立入試 類似）

1. 近郊農業による野菜栽培
2. 豊富な地下水を利用した稲作
3. 広大な土地を利用した畜産
4. 温暖な気候を活かした果樹栽培

問2　九州地方の工業発展の歴史と、その後の変化について述べた文として正しいものはどれか。（2016年 神奈川県公立入試 類似）

1. 九州北部の工業は、地熱発電による電力を主軸として発展しており、石炭や石油などの化石燃料を一切使用したことがない。
2. 明治時代から石炭資源を背景に重工業が発展したが、現在はIC（集積回路）や自動車工業など産業の多様化が進んでいる。
3. かつては石油資源の産出によって重工業が発展したが、現在は環境保護のために全ての工場が内陸部へ移転している。
4. 現在も九州北部では石炭が主要なエネルギー源として採掘され続けており、重化学工業の出荷額が全国1位を維持している。

問3　九州地方南部や四国地方の太平洋側では、冬でも雪が少なく温暖な気候を利用して、ピーマンやきゅうりなどの促成栽培が盛んに行われています。このような温暖な気候をもたらす主な要因について、海流の性質に注目した説明として最も適切なものを選びなさい。（2023年 岡山県公立入試 類似）

1. 日本海側を北上する対馬海流が、対馬海峡を通じて太平洋側に大量の熱を供給しているため。
2. 高緯度から冷たい水を運ぶ「寒流」である親潮が、太平洋の沿岸部を冷やしているため。
3. 大陸沿いに南下するリマン海流によって、冬の乾いた季節風が温められるため。
4. 低緯度から熱を運んでくる「暖流」である黒潮が、日本の南岸から東岸に沿って流れているため。

問4　九州地方南部に広がるシラス台地のような地形で、標高が高い平坦な面が主に「畑」として利用される理由として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 静岡県公立入試 類似）

1. 標高が高い場所は気温が低く、稲の生育に適さないため、寒さに強い作物を育てる必要があるから。
2. 標高が高い場所は平地よりも日照時間が短く、水田よりも畑作の方が収穫が安定するから
3. 火山灰が降り積もった地層は水はけが良すぎて、稲作に必要な水を保持することが困難だから。
4. 台地の上は地盤が非常に軟弱であり、水田を作ると地盤沈下を引き起こす恐れがあるから。

問5　九州地方にある阿蘇山は、中央部が円形に大きく窪んだ特殊な地形を持っています。火山活動によって火山灰や溶岩が大量に噴き出したあと、その場所が陥没してできたこのような大規模な窪地を何と呼びますか。（2022年 愛媛県公立入試 類似）

1. シラス台地
2. カルデラ
3. 扇状地
4. リアス海岸

問6　宮崎県では、温暖な気候を利用したピーマンやきゅうりなどの園芸農業が盛んです。これらの作物の収穫時期を、他の地域よりも早めるなどの工夫を行う主な理由として、最も適切なものはどれですか。（2022年 宮城県公立入試 類似）

1. 夏から秋にかけて発生しやすい台風の被害を最小限に抑え、安定した出荷を行うため。
2. 冬に降る大量の雪が農作物の成長を妨げるのを防ぎ、春の間にすべて収穫するため。
3. 輸入農産物が最も安くなる時期に合わせ、価格競争で有利に立つため。
4. 夏の強い日差しを好む熱帯性の害虫が大量発生する前に、収穫を終えるため。

問7　沖縄県などの南西諸島で見られる伝統的な住居では、屋根の瓦を白っぽい漆喰（しっくい）で固めたり、敷地の周囲をサンゴ礁の石垣で囲んだりする工夫が見られます。このような工夫がなされている理由として最も適切なものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）

1. 夏から秋にかけて頻繁に襲来する台風の強風被害を防ぐため
2. 冬の厳しい積雪によって屋根が押しつぶされるのを防ぐため
3. 大規模な地震が発生した際の家屋の倒壊を抑制するため
4. 周辺の森林から野生動物が敷地内に侵入するのを防ぐため

問8　日本の諸地域の気候を比較したとき、那覇市の平均気温や降水量の特色について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 栃木県公立入試 類似）

1. 年間の平均気温は福岡市などの九州地方の都市よりも低くなるが、梅雨や台風の影響で年間の降水量は非常に多い。
2. 亜熱帯に近い気候のため、年間の降水量は日本で最も少ない部類に入る高松市よりも、すべての月において下回ることはない。
3. 夏と冬の気温差が非常に大きく、札幌市などの北日本の都市と同様に、冬の降水量が１年の中で最も多くなる。
4. 年間を通じて気温が高く、１月と７月の平均気温の差は、内陸に位置する松本市などの都市と比べて小さい。

問9　1960年代の北九州市は、重化学工業の発展に伴って深刻な環境問題に直面しました。この状況を克服し、現在は環境モデル都市として知られるようになるまでに行われた取り組みの説明として、最も適切なものはどれですか。（2017年 長野県公立入試 類似）

1. 地震や津波などの自然災害に備え、沿岸部の工場地帯を解体して内陸部へ居住区を移した。
2. 市民、企業、行政が互いに協力し合い、汚染物質の排出規制や技術開発によって改善を進めた。
3. 二酸化炭素の排出を抑えるため、太陽光発電などの再生可能エネルギーのみを全産業の動力とした。
4. 全ての工場を市外へ移転させることで、工業都市から観光都市への全面的な転換を図った。

問10　九州地方北部の福岡県から佐賀県にかけて広がり、有明海に面している広大な平野があります。この平野は九州最大の稲作地帯として知られていますが、その名称として正しいものを選びなさい。（2022年 宮城県公立入試 類似）

1. 仙台平野
2. 宮崎平野
3. 熊本平野
4. 筑紫平野

問11　鹿児島県において、近年、福岡市や大阪市などの都市部からの観光客やビジネス利用が増加した交通インフラの変化として、最も関係が深いものはどれですか。（2016年 高知県公立入試 類似）

1. シラス台地を横断する日本初の自動運転専用の高速道路が整備されたこと
2. 桜島と市街地を結ぶ巨大な海底トンネルが開通し、物流が効率化されたこと
3. 九州新幹線が全線開通し、博多駅や新大阪駅との接続が強化されたこと
4. 県内のすべての主要駅を結ぶ路面電車網が、新幹線と同等の速度に改良されたこと

問12　熊本県に位置する阿蘇山では、大規模な噴火によって地下のマグマが噴出した後、地表が陥没して「カルデラ」と呼ばれる地形が作られました。この地形の利用や特徴について説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2016年 三重県公立入試 類似）

1. カルデラの急斜面を利用して、大規模な稲作や果樹園が展開されている。
2. カルデラの底部には常に水が溜まっており、巨大な湖としてのみ利用されている。
3. カルデラ内には広大な草原が広がり、牛や馬の放牧が行われている。
4. カルデラの周囲は火山灰が堆積したシラス台地となっており、サツマイモ栽培が盛んである。

問13　佐賀平野などの農業で見られる、同じ耕地を利用して4月から6月にかけては麦を栽培し、その収穫が終わった後の夏から秋にかけて米を栽培するという、1年間に2種類の異なる農作物を育てる方法を何といいますか。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 単作
2. 二期作
3. 促成栽培
4. 二毛作

答え合わせ・解説

問1	答え 3 広大な土地を利用した畜産	鹿児島県に広がるシラス台地は水持ちが悪く、大規模な水田稲作には適していませんでした。そのため、広大な土地を有効に活用できる畜産業が発展し、現在では肉用牛、豚、鶏の飼養頭数・羽数が全国屈指の規模を誇る日本代表的な畜産県となりました。統計上でも農業産出額の約65%を畜産が占めています。
問2	答え 2 明治時代から石炭資源を背景に重工業が発展したが、現在はIC（集積回路）や自動車工業など産業の多様化が進んでいる。	九州北部は明治時代以降、豊富な石炭資源を利用して鉄鋼業などの重工業が大きく発展しました。しかし、1960年代のエネルギー革命によってエネルギー源が石炭から石油へと転換されると、炭鉱は閉山し、産業構造の変化を余儀なくされました。その後、空港や高速道路の整備が進んだことで、輸送に便利なIC（集積回路）の工場や、広大な用地を活かした自動車工場が進出し、現在は多様な産業が展開されています。
問3	答え 4 低緯度から熱を運んでくる「暖流」である黒潮が、日本の南岸から東岸に沿って流れているため。	黒潮（日本海流）は低緯度の暖かい海域から流れてくる「暖流」であり、周辺の気温を上昇させる働きがあります。この海流が九州南部から四国、関東にかけての太平洋沿岸を流れているため、これらの地域は冬でも温暖な気候が保たれています。この気候的特色は、ビニールハウスなどを利用して野菜の出荷時期を早める促成栽培にも活用されています。
問4	答え 3 火山灰が降り積もった地層は水はけが良すぎて、稲作に必要な水を保持することが困難だから。	シラス台地は火山噴出物が堆積してできた地形で、水が地下に浸透しやすい性質を持っています。台地の上（標高が高い部分）は川からの水も引きにくく、水持ちが悪いため、水田よりもサツマイモや茶などの畑作に利用されるのが一般的です。一方で、台地を削る川沿いの標高が低い場所では、わずかな水を利用して水田が作られることがあります。
問5	答え 2 カルデラ	阿蘇山に代表されるこの地形は、大規模な噴火によって地下のマグマが噴出したあと、空洞になった場所が重みで崩れ落ちる（陥没する）ことで形成されます。ポルトガル語で「鍋」を意味する言葉が語源となっており、日本だけでなく世界各地の火山地帯で見られる地形です。
問6	答え 1 夏から秋にかけて発生しやすい台風の被害を最小限に抑え、安定した出荷を行うため。	宮崎県を含む九州地方南部は、夏から秋にかけて台風の通り道になりやすく、農作物が暴風雨によって大きな被害を受けるリスクが常にあります。そのため、気象災害を回避するために収穫期を前倒しする工夫や、温暖な気候を活かした促成栽培が発達しました。これにより、他の産地の出荷が少ない時期に市場へ供給できるという経済的な利点も生まれています。
問7	答え 1 夏から秋にかけて頻繁に襲来する台風の強風被害を防ぐため	沖縄県をはじめとする南西諸島は、夏から秋にかけて発生する台風の進路にあたることが多く、古くから強風による被害を受けてきました。屋根の瓦を漆喰で固定するのは風で飛ばされないようにするためであり、サンゴ礁を利用した石垣は風を遮る防風壁の役割を担っています。これらは地域の気象条件に寄り添った伝統的な知恵といえます。
問8	答え 4 年間を通じて気温が高く、１月と７月の平均気温の差は、内陸に位置する松本市などの都市と比べて小さい。	那覇市は低緯度に位置し、周囲を海に囲まれた海洋性の気候であるため、年間を通じて平均気温が高く、夏と冬の気温差（年較差）が小さいのが特徴です。これに対し、内陸にある松本市などは放射冷却などの影響で冬の冷え込みが厳しく、気温の年較差が大きくなります。また、那覇市は梅雨や台風の影響で降水量は多い傾向にありますが、時期や年によっては他の都市よりも少なくなることもあり、常に他の都市を上回るわけではありません。
問9	答え 2 市民、企業、行政が互いに協力し合い、汚染物質の排出規制や技術開発によって改善を進めた。	かつて北九州市は「七色の煙」と呼ばれるほどの大気汚染や、洞海湾の深刻な水質汚濁に悩まされていました。この状況に対し、まずは子どもの健康を心配した市民（母親たち）が立ち上がり、企業や行政に働きかけました。その結果、三者が一体となって対策を講じる体制が整い、厳しい排出基準の策定や企業の技術革新が進んだことで、環境問題の克服に成功しました。この経験は現在、国際的な環境協力にも活かされています。
問10	答え 4 筑紫平野	福岡県と佐賀県にまたがるこの平野は、有明海の干拓や堆積作用によって形成されました。九州地方における主要な食糧生産基地となっており、特に米の生産が非常にさかんな地域です。
問11	答え 3 九州新幹線が全線開通し、博多駅や新大阪駅との接続が強化されたこと	鹿児島県は九州の南端に位置するため、かつては九州北部や本州との移動に多大な時間を要していました。しかし、九州新幹線が鹿児島中央駅まで全線開通したことにより、博多駅まで最短で1時間20分弱、さらに山陽新幹線との直通運転によって新大阪駅とも約4時間で結ばれるようになりました。この「時間距離」の短縮が、ヒトやモノの動きを活発にし、地域経済に大きな影響を与えています。
問12	答え 3 カルデラ内には広大な草原が広がり、牛や馬の放牧が行われている。	阿蘇山のカルデラ内やその外輪山には広大な草原が形成されており、古くから畜産（放牧）が盛んに行われてきました。シラス台地は主に鹿児島県から宮崎県にかけて広がる地形で、阿蘇山そのものの特徴とは区別して理解する必要があります。
問13	答え 4 二毛作	1年間のうちに同じ耕地で2種類の異なる作物を育てる方法を二毛作と呼びます。これに対し、同じ耕地で1年間に2回同じ作物（主に米）を栽培する方法は「二期作」と呼ばれます。佐賀平野では、水はけを改良する技術や気候条件を活かし、古くから米と麦の二毛作が盛んに行われてきました。